

コムギ(ムギ類の登録農薬も使用できる)

コムギ

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	赤かび病	赤枯病	うどんこ病	黄斑病	条斑病	眼紋病	黒点病	黒変病	葉枯病	斑葉病	なまぐさ黒穂病	雪腐小粒菌核病	アブラムシ類	ヒメトビウンカ	ムギアカタマバエ	ムギキモグリバエ	アワヨトウ
トップジンM水㊟	1		14	*d	◎		◎			◎											
トップジンM粉DL㊟	1		14	*d	◎																
ベンレート水㊟	1		7	2	◎		◎														
アフェットFL	7		14	3			◎														
ミラビスFL	7		7	2	◎	◎															
アミスター20FL	11		7	3			◎	◎	◎												
ストロビーFL	11		14	3	◎		◎	◎													
ファンタジスタFL	11		14	3	◎																
シルバキュアFL	3		7	2	◎		◎	◎			◎	◎									
チルト乳25	3		3	3	◎		◎	◎			◎										
トリフミン乳	3		3	3	◎		◎														
プロラインFL	3		7	2	◎		◎	◎			◎	◎	◎								
		*b	1															◎			
キノンドー水40	M1		*a	1											◎	◎					
オーソサイド水80	M4		14	4	◎						◎	◎	◎	◎							
べフラン液25	M7	劇	*a	1					◎					◎		◎					
			*c	14	◎		◎														
ホームイ水	1・M3		*a	1											◎	◎					
キンセット水80	M1・M1		*a	1					◎												
			60	5					◎												
スミトップM粉㊟	1・1B		14	1	◎		◎											◎	◎	◎	
スミチオン乳	1B		7	1														◎			◎
トレボン乳	3A		14	2														◎	◎		
ペイオフME液	3A	劇	7	2														◎			
アドマイヤー顆水	4A	劇	14	2														◎			
ビレスコ顆水	4C		7	2														◎			
アブロード水	16		7	3															幼		
ウララDF	29		7	2														◎			

㊟: チオファネートメチル含有剤 ㊟: ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a: 播種前 *b: 根雪前

*c: 3回以内(出穂期以降は1回以内)

*d: 3回以内(出穂期以降は2回以内)

幼: 幼虫

コムギ(ムギ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
赤かび病	開花始め～ 開花最盛期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 トリフミン乳剤● 1000倍 トップジンM水和剤● 1000～1500倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	4～5月	・発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル● 2000～3000倍 トップジンM水和剤● 1000～2000倍 トリフミン乳剤● 1000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
裸黒穂病 ・ なまぐさ 黒穂病	播種前	・次の薬剤で種子消毒を行う。 ベンレートT水和剤20* 20倍 10～20分間浸漬 200倍 6～24時間浸漬 乾燥種子重量の0.5% (粉衣)	*ムギ類での登録
	発病時	・病穂は早期に抜きとり処分する。	
から黒穂病	播種前	1. 品種の選択に注意する。 2. 早まきをさける。 3. 被害の多い圃場では連作をさける。	
	発病時	・被害株は発見次第黒粉が飛散しないよう抜きとり処分する。	
アブラムシ類	出穂前後 (4～6月)	・発生の多いときには次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤* 2000倍 ウララDF 4000倍 スミチオン乳剤 1000倍	*ムギ類での登録